

第23回「海の香りのする詩」

市内小学生の部

大賞

海をテーマにした「海の香りのする詩」の受賞作品が決定しました。
市内から627点、市外(県内)からは306点の応募があり、次のみなさんが入賞しました。

教育委員会生涯学習課

☎(25) 1268

「網場へ」 城山 翔汰 (鏡浦小学校6年)

おじさん、おばさんは漁師
おじさんの船が海へ出て行く
青い海、船が通った後の白い波
真っ暗な海へ漁に出る船
太陽が昇るころ、網を上げる
二人 いつもいっしょに

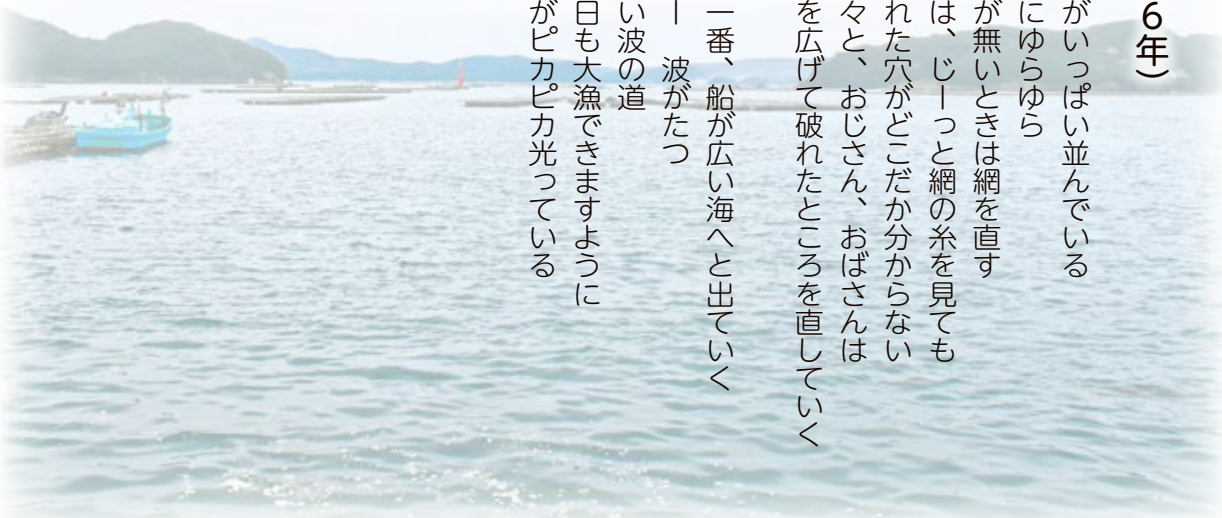
港にいくつもの船が戻ってくる
ザーザー 波の音といっしょに
カモメが鳴く
網場がにぎやかに
網をさばきながら魚をとる
おじさんに会うつ

「おい、来たか。魚を持ってけ。」
おじさんの船は大漁だ
「ありがとう。」

おばさんが、魚をいっぱいいれてくれる
バケツから魚がはみ出した
魚の尾っぽがバタバタはねる
潮が顔にとぶ
網場は、宝の山のように
鯛、平目、海老、タコ、イカ
海のおいがいっぱい

船がいっぱい並んでいる
波にゆらゆら
漁が無いときは網を直す
僕は、じーっと網の糸を見ても
破れた穴がどこだか分からない
黙々と、おじさん、おばさんは
網を広げて破れたところを直していく

朝一番、船が広い海へと出ていく
ザー 波がたつ
白い波の道
今日も大漁できますように
波がピカピカ光っている



選評

「海の香り」という言葉から、どんなことを思い浮かべますか。応募作品を読んでもと、生活や体験の中で、海を五感で感じたり、海に話しかけたり、海を頭の中に思い浮かべ自分の心を投影したりするなど、捉え方はさまざまでした。

海を身近なものとして生活している子どもたちの思いが、その子なりの素直な言葉で表現されていました。体験からくる言葉は読み手に感動を伝えます。また、暮らしに結びついた作品には味わいがあります。海は身近になくても想像を働かせ、内面の揺れを海になぞらえて表現しているものもありました。

市内小学生の部(大賞)

翔汰さんのおじさんとおばさんが漁を終えて戻ってくる網場。そこでのやりとりが、会話やとれた魚の様子などを通して生き生きと表現されています。「波の音といっしょにカモメが鳴く」「潮が顔にとぶ」「網場は宝の山のように」など、すてきな言葉があります。そして、網を直す二人の様子をじっと見つめ、仕事ぶりに感心し大漁を願う翔汰さんがいます。

市内中学生の部(大賞)

遥さんの住む桃取の海に浮かぶ筏。そこは、牡蠣^{いかだ}の住処。かわる人たちは、海が荒れ狂う時には無事を祈り、収穫の時には船で真っ白い線を描くように筏へ向かう。筏も毎日来るのを待っている。筏と人とのつながりをしっかり見つめています。遥さんは、そこに、たくさんの願いがこめられていると感じ取っています。「夕日に真っ赤に染まる」情景が目には浮かんでくるようです。

(選考委員長 濱田 浩)

市内中学生の部

大賞

「筏」 前田 遥（鳥羽東中学校2年）

桃取の海には牡蠣の筏がたくさん浮かんでいる。
筏は牡蠣の住処だ。

筏は牡蠣を成長させて守っている。

そんな筏の天敵は台風だ。

台風で筏が折れてしまわないか、流されてしまわないか、牡蠣業者は、自分の住処よりも筏を心配する。

でも台風中何もしないことは出来ないから、荒れ狂う白波をみつめてただ筏の無事を祈るだけだ。

そして夏の台風を乗り切れば、収穫の時が来る。

海の香りがしみついた筏から牡蠣を船へ揚げの時だ。

大漁を願いシーズンが始まる。

シーズンが始まると、毎日、牡蠣船が筏までまるで海の上に真っ白い線を描くように筏へ向かう。

おだやかな日も寒い日も風が強い日もすごく暑い日も、毎日毎日休むことなく筏へ向かう。

そして筏も毎日毎日、牡蠣業者を待っている。

シーズンを終えると、荒波に耐え続けてくれた筏を修理する。

筏に休む間もなく、また来シーズンの牡蠣をつくる。

筏はまた牡蠣の住処となる。

夕日に真っ赤に染まる桃取の海と筏には、たくさんの願いがこめられている。

その他の受賞作品は次のとおりです。

市内小学生の部

伊良子清白賞 「久しぶり」

久保田帆南（鳥羽小5年）

入賞 「国崎の海」 岡本羽瑠

（弘道小5年）、「今日の海」

浅尾悟凰（鏡浦小5年）、「お

じいちゃんが生きた海」 東蓮

（鳥羽小5年）

奨励賞 「海の宝石箱つさぎ山

島」 住井葉菜（鳥羽小6年）、

「じいちゃんとの思い出」 齋藤

亮弥（安楽島小5年）

市内中学生の部

伊良子清白賞 「船の窓から」

奥村就（鳥羽東中3年）

入賞 「盆踊り」 石川結捺（鳥

羽東中1年）、「海の意外な一

面」 野村華音（加茂中2年）、

「ありがとつ、海」 中井倫世

（加茂中3年）

奨励賞 「船から見える太陽

と海は」 松村琉里（鳥羽東中1

年）、「私と海」 松村采伽（鳥羽

東中3年）、「光る海」 上村虎太

郎（長岡中3年）

みなさんの作品は、受賞作品集として編集し配布する予定です。

※敬称略

今年は答志島和具浦産ワカメが

スゴイんです！

農水商工課水産係 ☎ (25) 1167



三重県で生産される養殖ワカメのほぼ100パーセントを占める鳥羽のワカメは、毎年1月から4月ごろにかけて収穫作業が行われます。

特に、答志島和具浦で生産される養殖ワカメは、ワカメを炊き上げるときに立ち上がる湯気と香りが、環境省の「香り風景100選」にも認定されるなど、季節の風物詩にもなっています。

そんな和具浦のワカメですが、鳥羽磯部漁業協同組合和具浦支所が、昨年10月にワカメでは世界初となる水産エコラベル認証を受けたことにより、今シーズン生産する塩蔵ワカメからマリン・エコーラベル・ジャパン（以下MEL）が発行する認証シールを付けて、流通することになります。

水産エコーラ



ワカメの炊き上げの様子



MEL認証の市長への報告にて

ベルは、生態系や資源の持続性に配慮した方法で漁獲・生産（養殖）された水産物に与えられるもので、環境にやさしい水産物として新たなブランドワカメとしての発信が期待されます。

今年は、東京2020オリンピック・パラリンピック大会が開催されるなど、ビッグイベントも多く開催されます。

答志島和具浦産塩蔵ワカメが、それらのイベントを契機とし、全国への認知度を高めていけるような取り組みにつなげていきたいと思ひますので、今シーズンの新物ワカメを楽しみにお待ちください。